

翔洋

P T A ・ 学校通信
厚岸翔洋高校 P T A
総務部編集
No. 41

「恩送り」 (Pay It Forward) の精神で…

三年海洋資源科担任 小坂実顕

ご卒業、おめでとうございます。この学年の生徒達は厚岸翔洋高校が開学して十年目、厚岸水産高校が設立して八十年の「節目」の年に入学してきました。「節目」という言葉は一般的には物事の区切りや転機などの意味で用いられる表現です。マーケティングでは、進学、就職、結婚などに伴い生じる需要を「節目需要」と呼ぶそうです。節目を迎えている生徒達には、今何を思い、何に向かつて生きようとしているのでしょうか。これから自分を取り巻く環境が大きく変わることや想像し、不安になっていると思います。もし、目標がなければ、人生を振り返る必要があります。振り返るには自分の在り方や事実を省みて改善点を見出す力が必要です。アメリカの経験学習モデルを提唱している組織行動学者のデービット・コルブは、社会人の能力開発はほとんどが日常の仕事の経験（振り返り）から生まれているとしています。目標を立てず、ただ何となく過ごしてきた生徒達もいるとしたら、この節目に一度、今までの人生を振り返り、先のことを考えて過ぎて欲しいと思います。自分自身の成長のきっかけになります。

さて、日本には「恩送り」(Pay It Forward) という私の好きな言葉が存在します。その意味は誰からか受けた恩を直接その人に返すのではなく、別の人に送ることです。そうすることで「恩が世の中をぐるぐるまわり、社会に正の連鎖が起こるそうです。その実体験を映画化した「Pay It Forward (ペイ・フォワード)」というハリウッド映画があります。その映画のキャッチコピーは「きっかけはここにある」というものです。是非、コロナ禍で負の連鎖の波が自分の周りで起きたら、それを見て見過ごさず、何が出来たのだろうと考え、解決するきっかけを作ってください。また、すぐ見返りを求めるのではなく相手への善い行いを第一に心がけることを大切にしてください。そうすることで、竹のように少しずつ成長しながら立派な節目をつくり、大切な「いま」をしつかり生きることができると私は信じています。

3年間の軌跡



人間万事塞翁が馬

三年普通科担任 南賢

月日が巡るのは早いもので、君たちとの出会いから三年が経とうとしている。今思うのは、「君たちは社会で負けない人に成長してくれただろうか。」との一点である。高校生活では、一人ひとりが自身の個性を発揮し、自分らしく日々を生き抜いた。しかし、これからは一人の「大人」として、一つひとつの行動につきまとう「責任」の重さが一気に増す。自身の事情が考慮されず、苦しい状況になることもあるだろう。それらに耐えるにはどうすればよいのか。そのヒントが、中国の先哲の知恵に隠されている。

ここで、中国前漢時代の思想書『淮南子』の「人間訓」の中にある「塞翁が馬」という故事を紹介したい。

昔、中国の北方の些近くに占いの得意な老人（塞翁）が住んでいた。ある日、塞翁が飼っていた馬が逃げてしまったので、人々が慰めにいくと、塞翁は「これは幸いになるだろう」と言った。

数ヶ月後、逃げた馬は立派な駿馬（素晴らしい馬）を連れて帰ってきたので、人々がお祝いにいくと、塞翁は「これは災いになるだろう」と言った。

塞翁の息子が駿馬に乗って遊んでいた、落馬して足の骨を折ってしまったので、人々がお見舞いに行くと、塞翁は「これは幸いになるだろう」と言った。

一年後、隣国との戦乱が起こり、若者たちはほとんど戦死したが、塞翁の息子は足を骨折しているため兵役を免れて命が助かった。

この故事から学ぶ教訓は「目の前の不幸のとらえ方は自分次第」ということである。

君たちの行く末には「上り坂」もあれば「下り坂」もあるだろう。だが、「一番怖い「坂」は「まさか」という緊急事態である。ここで「不幸だ」と嘆いて歩みを止めるのか。それとも、「今の労苦は未来の幸福のための試練なのだ」と前向きにとらえるのか。後者の考え方を選べば、その後の人生の針路は大きく変化する。

高校生という人生のステージは終わりを迎え、悪戦苦闘の社会への船出を迎えた。「自身の不幸は自身が決める！」との決意で新たなスタートを切ろう。

君たちとの別れに一抹の寂しさを覚えるが、目の前の事柄に一喜一憂する自己を乗り越え、耐えて、耐えて、耐え抜いて成長して欲しいと切に願う。

社会人となった皆様の未来を祝しつつ、ご卒業おめでとうございます。



厚岸翔洋高等学校校長
三田村 司

感謝

今年は、全国的に雪も多く、厚岸も多分に漏れず雪の多い冬だったかと思いますが、校舎から見える厚岸湾にも暖かな日差しが届き、着実に春の訪れを実感出来る時期となりました。

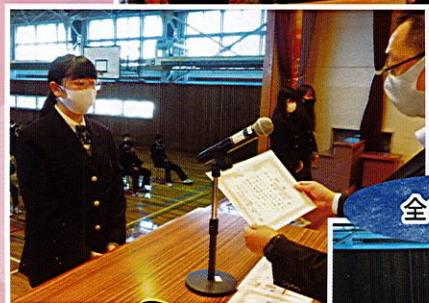
また、全世界が翻弄されている、新型コロナウイルス拡大の影響から四月末から五月いっぱい臨時休業となりました。このコロナウイルスの影響は、PTA行事の中止等をはじめ生徒の各種大会や学校行事の中止も余儀なくされたところであり、未だ収束の兆しが見えない状況で、コロナに始まりコロナで終わった年となりました。

そのような中、保護者の皆様におかれましては、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、特に生徒の健康管理に際し、無理なお願いをご理解いただきご協力を賜りましたことに「感謝」いたします。さて、生徒たちはこのコロナ禍の中、我慢をしいられた一年間でしたが自己実現へ向けしっかりと歩んでおります。この経験は社会に出てからいつか役に立つときが来ると信じております。

今後は、たくさんさんの情報は氾濫し、今までとは考えられないスピードで世の中が変化していく中、「自ら考え、自ら学ぶ」力が大切になります。社会に出て己の小ささを実感し壁に当たるときが来ます。その時は人生の先輩である保護者の皆様の出番です。良きアドバイザーとなっていたいただければと思います。激動の社会を迷子になることなく全力で生き抜いていただきたいと思います。

最後に、卒業生の皆さん卒業おめでとう、君たちのこれまでの活躍に「感謝」いたします。また、これまで生徒を支えていただいた保護者の皆様にも改めて「感謝」いたします。
「本当にありがとうございました」

翔洋高校アラカルト



全校集会における表彰式



後期体育大会



薬物乱用防止教室



編織実習



企業実習報告会



授業風景



成果発表会

